

さいたま市議団ニュース

日本共産党

No.817
2018.11.18

発行

日本共産党さいたま市議会議員団
TEL 048-829-1811 FAX 048-833-8165
http://www.jcp-saitama.jp/

山崎 あきら	久保 みき
神田よしゆき	もりや千津子
戸島 よし子	松村 としお
とりうみ敏行	大木 学

767項目 2019年度予算要望を提出



清水勇人市長に2019年度
予算要望書を手渡す山崎団長
(左から3人目)

市民生活に視点をあわせた 予算編成を

11月9日、党市議団は清水勇人市長に対し、2019年度市政運営及び予算編成に関する要望書を提出しました。要望は、市の財政運営のあり方から10行政区ごとの身近な要求まで767項目にわたります。

提出にあたって、山崎あきら市議は「市民アンケートでは60%の方がくらしが悪くなったと答えており、税金・国保料の負担、収入・年金が減り、公共料金が高いなど市民生活はかつてなく厳しい。決算委員会でも明らかにしたが、毎年50億を超える純利益を市民に還元して、水道料金を引き下げ、負担感

を軽減させることが求められている。暮らしを支える視点をすえた来年度の予算編成をおこなってほしい。」と述べました。

また、もりや千津子市議は、「市の人口が増え続けているなかで、学校建設が後回しになっている。大規模校・過大規模校の問題があり、少人数学級や特別支援学級設置など、本来あるべき教育環境を整えることができない。ぜひ解消をお願いしたい」と求めました。松村としお市議は、「障害者のグループホームへの補助制度が、運営費補助については検討すると議会答弁があった。ぜひ他の政令市

討論をおこなう戸島市議



75歳以上の高齢者の医療費窓口 2割負担は中止を

県後期高齢医療広域連合議会

11月5日、埼玉県後期高齢医療広域連合議会が開催され、戸島よし子市議が出席しました。戸島市議は、2017年度特別会計決算に反対し、「保険料の特例軽減が縮小され、全県で13万3400人の元被扶養者などの保険料が大幅に値上げさ、総額9億6317万円の負担増となった。また、高額療養費の自己負担額が引き上げられ、この負担額も9億5000万円となった。高齢者は、保険料と医療費の両面で重い負担となっている」と討論をおこないました。

一般質問では、窓口2割負担問題を取り上げました。

戸島 高齢者の所得は、10年前より12万円も減っている。介護・医療の保険料の負担が重くなっている。現在、医療費の負担割合はどうか。

広域連合 1割負担の人は77万2000人、92.31%。現役並みの3割負担は6万4290人、7.7%となっている。

戸島 政府は、窓口での医療費負担を1割から2割に引き上げる閣議決定をした。どのような影響が出るのか。

広域連合 2017年度決算ベースで試算すると、1件当たりで1240円増、全体で約278億円の増となる。

戸島 2割負担に引き上げられることについてどう考えているのか。

広域連合 高齢者が医療を受ける機会の確保から、現状維持に努めたい。全国広域連合協議会を通じ、国に要望している。

戸島市議は、「高齢者や現役世代に負担を押し付けるのは止めて国が財源拡充を図り、窓口2割負担を中止するよう強く意見を上げよ」とさらに求めました。

に遜色のない制度を実施してほしい。あわせて設置・整備費補助も検討してほしい」と市長へ伝えました。

清水市長は、「反映できるもの、できない

ものとあるが、しっかり受け止め、予算編成にあたりたい」と述べました。

党市議団は引き続き、市民の願いをまっすぐ市政に届けていきます。

南区 武蔵浦和駅に 新しい改札口を

11月5日、「南区西・住みよいまちをつくろう会」のみなさんが西部まちづくり事務所を訪れ、JR大宮支社に対する「武蔵浦和駅に新改札口設置を要望する」署名2754筆を届け、要請と懇談をおこないました。この要請にはもりや千津子市議が同席しました。

武蔵浦和駅へ新改札口設置を求める声は以前から強くあがっており、何度もさいたま市には署名とともに要望を届けてきました。しかし設置主体者であるJR大宮支社は「コストがかかる」という理由により設置しません。武蔵浦和駅は毎日11万人以上の利用者があ



要請に同席するもりや市議（右から3人目）

り、朝のラッシュ時などは1カ所の改札口に利用者が集中したり、武蔵野線と埼京線利用者の動線がぶつかるなど危険な状態になっています。駅周辺の再開発にともない人口が急増したことで、駅利用にかかわる安全性も問われています。市には住民の安心と安全を確保する責任があることから、会のみなさんは市とJRに対し、新改札口を早急に設置するよう強く求めました。

高すぎる水道料金の値下げ訴え さいたま革新懇総会



発言する山崎市議

11月11日、さいたま市革新懇話会の総会が市民会館うらわで開催され、党市議団から山崎あきら、神田としゆき、とりうみ敏行、もりや千津子の各市議が参加しました。

総会では1年間の革新懇の活動が報告され、それにもとづく各分野からの報告と意見交流がおこなわれました。

党市議団から山崎あきら市議が発言し、現在さいたま総行動実行委員会がとりくんでいる水道料金引き下げ署名運動について触れ、「さいたま市の水道料金は名古屋市の2倍、政令市のなかで4番目に高く、県内でいちばん高い。一方、毎年50億円以上の利益を上げつづけ、2017年度決算でも58億円もの純利益を上げ、累積資金剰余金が94.5億円に達している。値下げは十分可能だ」と共同を呼びかけました。

学童保育シンポジウム

学童指導員の確保と 定着のために処遇改善を

11月11日、さいたま市学童保育連絡協議会が「学童保育シンポジウム～これからのさいたま市の学童保育～」を開催しました。各会派の代表がシンポジストとして政策を述べる、こうした催しははじめてのことです。党市議団を代表して戸島よし子市議が発言し、久保みき市議もあいさつしました。

3つのテーマ①待機児童の解消②人手不足③障害児施策について、各会派が発言をおこないました。戸島市議は「公立の待機児童は深刻な状況。民間を整備していくのなら行政の責任で施設を確保すべき。空き教室の活用はやっと年間5カ所の整備を目標に掲げたが、さいたま市の公設率は40%と低い。公共施設や市有地なども活用していく必要がある」と



シンポジウムで発言する戸島市議

発言。また、「学童保育指導員の離職が公立で20%、民間学童でも3年目の壁と言われている。指導員の確保と定着を図るためには、処遇改善が重要。そのためにも国の処遇改善の国庫補助を活用していくべきだ」と考える。県内の各市で活用が進み、県も推奨している。さいたま市でも実施させることが重要」と強調しました。また、障害児保育の巡回指導についても、担当を複数に増やし拡充すべきと発言しました。参加者176人が熱心に聞き入っていました。

会場には、保護者や子どもから寄せられた学童のいいところや要望等が掲示されていました。

あなたの身近な議員です



市議(中央区)



市議(北区)



市議(見沼区)



市議(浦和区)



市議(桜区)



市議(南区)



市議(緑区)



市議(岩槻区)

山崎あきら 神田としゆき 戸島よし子 とりうみ敏行 久保 みき もりや千津子 松村としお 大木 学